

# 見た・聞いた・考えた

― 北欧の福祉・教育を考える旅から ―  
〈寄稿〉 全障研事務局長 蘭部 英夫さん

5 (最終回)

## 自治と民主主義

ケータイから鳴る「緊急地震速報」はなんともイヤな音だ。今朝は6時前の「速報」に飛び起きた。

何もかもが大揺れしはじめたような「空襲」だ。「マネー」という巨大市場は、世界の経済や政治をまるごと飲み込んでしまいたいような勢いだ。世論も急速に誘導されている。

「誰もががまんを必要としているときに、障害者だけ新たな予算を付けるなど国民理解が得られない」。政権与党が公約し、違憲訴訟が和解合意した障害者自立支援法の廃止さえも、絵に描いた餅にされかねない雲行きだ。そして、「税と社会保障の一体改革」の名で、消費税の大増税と年金、医療、介護の切り捨て。許せないキャンペーンに「北欧の高福祉は高負担だ」

あんたらは重税に耐える覚悟はあるのか！」がある。

デンマークで通訳をお願いしている田口さんの場合、①所得の8%が労働市場付加税。残った所得の9割に、②市民税24%、③国税5%、④医療税8%。これに⑤消費税25%。合計するとおよそ7割が税金だ（日本は社会保障をカウントすると約4割）。



写真1 デンマーク障害者作業所で通訳する田口さん

でも、日本のマスコミが報道しないのは、北欧の税は「応能」な「所得税」が基本だということ。収入に応じて納税額は決まる。高所得者には多く、そうでない人にはそれなりにシステマだ。低所得者に重い負担となる消費税は、税金総体からは補助的なものなのだ。

そしてなによりも、大前提として、北欧では福祉は当然医療も無料だ。教育費は教科書だけでなく、給食費も修学旅行費も無料。民間の「保険」や「貯金」頼みでなく、国が市民の「安心」や「備え」となる。税金がどのように使われるかはガラス張り、情報公開は徹底している。

では、日本はどうだろう？ 世界一の貯金大国（1456兆円）だが、その目的は病氣67%、老後56%、教育30%と「備え」のためだ。

アンデルセンの故郷に近い人口8千人の町議会を傍聴したことがある。議会は月曜と水曜の夜7時から開かれる。議員は無給で、商店主や農民、教員やヘルパーなど。開会のみんなの歌ではじまった。超過した町財政のどこを押さえるかで熱が入る。



写真2 エイビュウの町議会

「お年寄りが増えていいるから、支出は増えるが、これは減らせない」「サービスマン内容は下げられないから、これからつくる予定のホーム建設を少し先延ばししよう」「でもホームの修理代は必要だ」などなど、それぞれの立場から徹底して意見を交わし、合意を重ねる。それを議員の数以上の市民が傍聴していた。

大事なことは、大切にされるべきは、障害者を含めたすべての人々のくらしだ。納税が目的ではない。人々が幸福に生きることを実現するため、国や自治体は存在する。住まいや暮らし、教育や仕事保障され、一人一人のくらしの営みの上に、適切な税の

負担と再配分がされる。  
\*  
デンマークの農機具メーカーは、世界の風力発電会社になった。フィンランド・ノキア村のゴム長靴工場は携帯電話のNOKIAに。150年以上戦争をしていないスウェーデンは福祉と人権のトップランナーだ。北欧の自然は厳しい。20世紀初頭には人口の5分の1が移民せざるを得なかった。でも、そこに生きる人びとは、互いの努力を認め合い、連帯している。ゆるぎのない確かな自治と民主主義をつくっている。それは希望だ。  
(おわり)



写真3 コペンハーゲン市内のスケート広場

## 一年間を回顧して

ファンクラブ会長 太田 勅

今年、今までの物の見方や認識を大きく揺るがし転換を迫る大事件、事故や政治問題がありました。日本共産党ファンクラブはこれらの問題を正面からとらえ、学習や行動に取り組みました。会員やニュース読者のみなさんのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

2月には、TPP問題について諸団体と実行委員会を結成しシンポジウムを開催。JA大北、町役場、日本共産党、農業者の諸氏をパネリス

この大災害を契機に、今までの生活や日本のあり方を見つめ直し、安心安全な社会を模索し積極的に関わろうとする機運が

## 一人ひとりの願い・要求を大きな声に。親睦を深め楽しく活動できるファンクラブをめざしましょう。

トに迎え、農業や医療、社会保障など産業や社会、生活に及ぼす影響など、TPPの危険性について問題を解明しました。

\*\*\*

3月11日、東日本を大地震・大津波が襲い、福島第1原発で事故が発生、大被害をもたらしました。震災直後から共産党は被災地支援に全力をあげ、池田町では有志による現地支援の活動が継続して取り組まれました。

高まっています。その動きをいっそう強めることが求められます。

\*\*\*

4月の町議会議員選挙では、みなさんのご支援により服部久子、薄井孝彦両氏が見事当選を果たしました。2人の議員は、さつき町に住宅リフォーム制度の実施を約束させ、災害に強い町づくり、福祉の町

づくりを目指して奮闘しています。

\*\*\*

9月には原発、放射能問題で学習講演会を開催しました。講演では長年チェルノブイリ支援活動を行ってきた小牧崇氏が、放射能被害の実態を写真を交えて報告。大量の放射性廃棄物を生み出す危険な原発に頼るのではなく、自然エネルギーを活用すべきだと指摘し、国の策転換を訴えました。

\*\*\*

現在、ファンクラブニュースは池田町の45%の世帯で読まれています。臨時総会、定例総会では、いっそう親しみやすく読みやすい紙面になるように改善していこうと話しました。会員、読者の方々が楽しく集え、交流を深められる会にしていくことも今後の大切な課題です。今後とも大きなご支援をよろしくお願い致します。

## コラム 有明

特別養護老人ホーム高瀬荘が五丁目目新設された。エントランスホールから坪庭を見て広々とした廊下を進むと、車イスで出られるおおよそ50坪のデッキが2か所、高い吹き抜けから光が差し込む広い機能訓練室、共同生活室がある。床、壁、天井は木製で温かさのある雰囲気。どこを見ても特養のイメージを払拭するのに十分であった▼居室はすべて外に面している個室が40室、トイレ付は約13畳、ビジネスホテルのツイン部屋より広いと思われた。4人部屋の多床室は12室、一人当たり約7畳程度ある。利用料金は収入によって異なるが、個室は月約5〜10万円多床室より8千円〜2、3万円ほど差額がかかる計算▼すばらしい建物・設備なのに何か違和感を感じた。入居者数は旧高瀬荘と同じだ。大北広域で特養入所希望は複数申し込みで360人、池田町は約150人が在宅介護されているようだ。すべて入所待機者ではないが、切実な問題を抱えている家庭も多い。せっかく新設された高瀬荘、なぜ一人でも多く入所できる手立てを取れなかったのか▼池田町は大北全体がやっている「在宅介護慰労金」を実施する配慮もない。